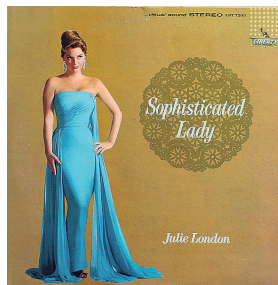


Sophisticated Lady

憧れのプロデューサー、石坂敬一さんからヒット曲を出すために選ばれたことは、身震いするくらいに光栄であり、その一方で恐ろしくもありました。やる!と決意したのに「いや、私はついていけないかも…」と気持ちが大きく揺れる時もありました。当時の音楽業界は資金力が豊かだったので、メジャーレーベルが売り出しにかかるとなると、爆発的なパワーでアーティストを押し上げてきます。音楽出版会社に勤務した経験上、ブレーンたちが最大限のパワーで私に迫ってくることは重々わかっていました。スタッフ経験がなければ、ただ嬉しいだけで気軽だっただろうなあ。でも私は恐る恐る契約書にサインをしました。

まず最初はデモテープ作りのためのスタジオ入りです。アルファミュージック原盤の「ハイファイセット」のカラオケを使って5~6曲レコーディングしましたが、恐らく出来は悪かったな。私のボイスレンジでは「ハイファイセット」のキーは高くて厳しい〜。昔のレコーディング技術はデジタルで無いため、キーを下げるにはテープの回転を遅くするしか方法がなく、回転数を落とし過ぎると元に戻した時に声が変わってしまうのでキーチェンジには限界がありました。汗だくで唄ったけど苦しいレコーディングでした。最近でこそ「ハイファイセット」の曲を



▲写真はJulie London / Sophisticated LadyのLPジャケット。

少し取り入れていますが、唄う度にその時の汗だくを思い出しちゃって緊張します(笑) デモテープの出来が悪くても再デビュー曲は決まっていきました。YAMAHAで温めて温めてデビューをさせてもらった時と違い、これが君の曲ですってボンと渡されました。以前とはまったく違うスタンスでした。私は売れなければならぬ。こんな音楽が好きとか、あんなイメージがイイ!なんてことは売れてから言える事です。ブレーンがスタンスを決めたら一緒に走りぬくのみ。再デビュー曲は売れっ子作家さんの16ビートの曲で振付けがあったのでダンスレッスンを受れたり、痩せた体形を維持するためにお腹が空いたらガムを食べてと言われてたり、ヘアメイクも衣装もすべてお任せでした。スタッフは無名の私を一生懸命に磨いて売り込んでくれました。そして、売り出すアーティストにはキャッチコピーを付けるのが常でしたが、石坂敬一さんが付けてくれた私のキャッチコピー

ジャズボーカリスト
星乃けい

officialwebsite

<https://www.hoshinokei.com>

はなんと!“Sophisticated Lady”でした。これはJazzの有名な曲です。当時の私はさっぱり意味が解らない〜、言いにくい〜全く興味がありませんでしたが、後年Jazzを唄うようになって歌詞の内容を知り、彼のイメージする私を知りました。Jazzと接点があったことが本当に不思議です。この曲は難曲で有名ですが一生かかって練っていきたく修行中です。だってピンクフロイドのLPタイトルに「狂気」って付けた最高のセンスの人が私にくれたプレゼントだから。いつか天国まで届くといいな。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される